

健康栄養学科 DP（ディプロマ・ポリシー）・学修成果

4 領域	健康栄養学科 ディプロマ・ポリシー 【卒業認定・学位授与に関する方針】		学修成果 (DPの評価指標)
	社会人としての常識・教養と食の専門家としての知識・技能・態度を身に付けさせ、食と健康の分野で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。		
【知識・理解】	DP1	社会生活を営むために必要な教養と食の専門家として活躍するための豊かな知識を身に付けている。	① 社会の仕組みについて理解し、社会人としての常識・教養を身に付けている。
			② 食品の特徴や取り扱いを理解している。
			③ 基礎的な人体の構造と機能を理解している。
			④ 食生活と健康の関係を理解している。
			⑤ 栄養教育に必要なマネジメントサイクルを理解している。
			⑥ 給食対象者への適切な栄養管理の在り方を理解している。
【思考・判断】	DP2	習得した知識を踏まえて、物事を論理的に考え、適切な判断ができる。	⑦ 対象者の食生活の実態を把握し、問題点を見つけ、改善方法を提案できる。
			⑧ 科学的に食品の取り扱いや調理法を捉え、よりよくするための工夫ができる。
			⑨ 物事について主体的に考え、状況に応じた適切な判断ができる。
【興味・意欲・態度】	DP3	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員としての倫理観と責任感、報恩感謝の気持ちを持った行動ができる。 ・食や健康に関して興味を示し、社会に積極的に関わろうとする意欲を有する。 	⑩ 感謝の気持ちを態度と言葉で伝えることができる。
			⑪ 社会の規律を理解し、自分の役割を果たそうと努力している。
			⑫ 食や健康における自身の関心を追求し、周囲に伝えようとする姿勢がある。
			⑬ 失敗を恐れず、チャレンジし、最後まで成し遂げようとする。
【技能・表現】	DP4	<ul style="list-style-type: none"> ・人々との良好な人間関係を築くことができる。 ・食と健康に関する専門技術と表現力を身に付けている。 	⑭ 周囲の人々と積極的に関わり、協力して活動することができる。
			⑮ 相手を尊重したコミュニケーションができる。
			⑯ 情報収集の手法を身に付けており、課題を解決するための基礎的な情報の収集と分析ができる。
			⑰ 適切な媒体を用いて、自分の意見・考えを分かりやすく伝えようとする。
			⑱ 個人や集団における適切な栄養マネジメントができる。

音楽科 DP（ディプロマ・ポリシー）・学修成果

4 領域	音楽科ディプロマ・ポリシー 【卒業認定・学位授与に関する方針】		学修成果 (DPの評価指標)
	音楽の理論と実技の基本を常に大事にし、 生涯にわたり、音楽に対して向上心を持ち 続けることができる人材の育成を目指す。		
【知識・理解】	DP1	音楽に関する基礎的な知識を身に付けている。	① 音楽理論の基礎を理解している。
			② 和声学を理解している。
			③ 西洋音楽史について正しい知識を身に付けている。
			④ 正しく楽譜を書くことができる。
			⑤ 楽曲の内容や構成を説明することができる。
【思考・判断】	DP2	音楽を通して社会の一員としての自覚をもった行動・判断ができる。	⑥ 他者と協働的な取り組みができる。
			⑦ 音楽活動を通して人間関係を築くことができる。
			⑧ 他者と音楽について語り合うことができる。
			⑨ 場に応じた服装、言葉遣いを身に付けている。
【興味・意欲・態度】	DP3	音楽を通して地域文化の発展に積極的に関わるができる。	⑩ 対象者に合わせた音楽活動内容を組み立てることができる。
			⑪ 地域社会におけるボランティア活動に積極的に取り組むことができる。
			⑫ 様々な音楽ジャンルに興味を持つことができる。
			⑬ 質の高い演奏を目指し努力することができる。
【技能・表現】	DP4	演奏・指導に関する実践力を身に付けている。	⑭ 演奏技術を身に付けている。
			⑮ 演奏表現を身に付けている。
			⑯ 発声法の基礎を身に付け、表情豊かに歌うことができる。
			⑰ 身に付けた理論・知識を応用することができる。

文化教養学科 DP（ディプロマ・ポリシー）・学修成果

4 領域	文化教養学科ディプロマ・ポリシー 【卒業認定・学位授与に関する方針】		学修成果 (DPの評価指標)
	日本語日本文学、日本文化実用英語、情報処理をはじめとする幅広い学びを通して、人間性豊かで、より良い人間関係を構築し、社会生活で主体的、積極的に行動できる人材の育成を目指す。		
【知識・理解】	DP1	・日本語日本文学・日本文化・実用英語及び情報処理について強い関心を持ち、理解を深めている。 ・社会に貢献するために必要な基礎的知識を身に付けている。	① 日本語日本文学・日本文化を自ら積極的に学ぶための基礎を身に付けている。
			② 図書館やインターネットを活用し、様々な資料や情報を探し出すことができる。
			③ 日本と国際社会の様々な仕組みや実情についての知識を持っている。
			④ 論理の組み立てやデータの分析についての基本的な力を身に付けている。
			⑤ 日本語や英語の文章を的確に理解する力を身に付けている。
【思考・判断】	DP2	自分自身の在り方から社会貢献の在り方まで、主体性を持って考えることができる。	⑥ 文学作品の理解を通して、人間性や人間関係、社会などについて考えることができる。
			⑦ 自分が地域の文化にどのように貢献するべきかを考えることができる。
			⑧ 直面する課題に対し、多面的に考え、論理的に整理して筋道の立った対処の仕方を考えることができる。
【興味・意欲・態度】	DP3	地域社会に貢献するため、様々な知識や意見などを積極的に役立てようとする意欲を持っている。	⑨ 自分が習得した知識を他者のために役立てようとする意欲を持っている。
			⑩ 他者の様々な意見を十分に理解しようとする。
			⑪ 地域社会における乳幼児や児童・生徒の成長を支援する意欲を持っている。
【技能・表現】	DP4	日本語を含めた語学、情報処理スキルを活用し、社会生活において良好なコミュニケーションを行うことができる。	⑫ 他者に対して適切な言葉づかいで話することができる。
			⑬ 適切な語彙を使いわかりやすい文章を書くことができる。
			⑭ 用途に合わせて正しく整った文字を書くことができる。
			⑮ 適切な資料を作成し、これを用いて口頭で分かりやすく説明することができる。
			⑯ 日常生活において英語を用いた基礎的なコミュニケーションを行うことができる。

子ども学科 DP（ディプロマ・ポリシー）・学修成果

4 領域	子ども学科ディプロマ・ポリシー 【卒業認定・学位授与に関する方針】		学修成果 (DPの評価指標)
	保育を实践するものとしての知識と技術を習得し、将来にわたって自分の保育の質を自ら高めることができる人材の育成を目指す。		
【知識・理解】	DP1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の成長・発達について理解している。 ・保育の目的、方法、内容について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの成長・発達に関する基礎的な知識を身に付けている。 ② 子どもの発達援助の方法について理解している。 ③ 保育の仕事に必要な実践技術を身に付けている。 ④ 保育・幼児教育の目的について理解している。 ⑤ 保育の方法及び形態について理解している。 ⑥ 保育者の仕事内容について理解している。
【思考・判断】	DP2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く環境を的確に把握することができる。 ・子どもの日々の課題に応じて、適切に対処することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 子どもを取り巻く環境について考えることができる。 ⑧ 現代の社会環境における子育て支援のあり方について考えることができる。 ⑨ 個々の子どもに応じた対応について考えることができる。 ⑩ 子ども間のトラブルについて、望ましい対応を考えることができる。 ⑪ 子どもの長所を見だし、伸ばさせるという視点を持っている。 ⑫ 保育指導計画を立案することができる。
【興味・意欲・態度】	DP3	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の出来事に、幅広く興味・関心を持つことができる。 ・子どもと関わる大人としての自覚をもち、それにふさわしい態度や言動をとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑬ 子どもを取り巻く社会に、興味や関心を持ち、情報を収集している。 ⑭ 芸術に関する幅広い興味、関心を持ち、行動している。 ⑮ 他の人の意見を理解して考えたり、質問したりできる。 ⑯ 向上心、探求心を持って最後までやり遂げることができる。 ⑰ 何事にも先を見通して行動できる。 ⑱ 何事にも積極的にかかわる姿勢が身に付いている。 ⑲ 正しい言葉遣いやマナーが身に付いている。
【技能・表現】	DP4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって安全・快適な環境を整えることができる。 ・子どもの表現活動を豊かにするために必要な技能（音楽系、図画工作系、体育系他）を有している。 ・子どもやその関係者と適切なコミュニケーションをとり、信頼関係を構築することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑳ 環境を活かした保育を实践できる。 ㉑ 子どもにとって安全、快適、清潔な遊び場の整備・提供ができる。 ㉒ 学んだ技術を実践に活かすことができる。 ㉓ 発表の技能を有している。 ㉔ 遊びの実践と指導方法を身に付けている。 ㉕ 子どもの表現への思いを読み取り、適切な方法で支援できる。 ㉖ 子どもの表現力に気づくことができる。 ㉗ 表現したい自己のイメージを具現化できる。 ㉘ グループで協働して作業ができる。 ㉙ 子どもや他人とのコミュニケーションがうまくできる。 ㉚ 他人との信頼関係を築き、意思疎通を図ることができる。